

瀬戸内みらい会議（健康づくり・福祉関係）

平成 21 年 11 月 16 日（月）10 時～12 時

瀬戸内市役所 3 階 第 3 会議室

参加者：愛育委員、栄養委員、老人クラブ、シルバー人材センター、手をつなぐ育成会、身体障害者福祉協会から 男性 6 名、女性 4 名

市民から出た意見と市長の反応

テーマ：健康でいたい市民の願いをくみ上げ、市政に反映するまちづくり

例 社協の福祉事業の停止－市としての支援は何かが必要か

老人クラブ

- ・社協のデイサービスの停止は、何か代替のサービスを社協がやるのか。
- ・最初はデイサービスを利用する人が少なかったが、行ってみると、次のサービスの日を楽しみにする高齢者が多いと聞く。外に出たがらない高齢者のためにも何らかのサービスが必要。
(市長) 民間事業者のサービスに任せると聞いている。
(福祉課長) コミュニティなどに集まっていただくふれあいサロン事業は継続するとのこと。社協の施設でのサービスをやめると聞いている。
- ・サロンにも地域差があると聞く。高齢者に来てもらえるサロンにするための方法を考える必要がある。孤独な人は中々出てきてくれない。老人会、行政、社協の協力が必要。
- ・老人クラブの役員など、持ち回りでお願いしている。最初は嫌々来ているように見えるが、活発に活動してくれる人が多い。地域の人材を掘り起こすきっかけづくりができれば、老人クラブ活動の活性化、ひいては地域の活性化につながると思う。
- ・老人クラブは自治会など小さな単位で組織した方が、地域が元気になると思う。ただ、県の補助金の関係上、ある程度以上小さくできない問題がある。何かいい支援方法を考えてもらえないか。

愛育委員

- ・ボランティア活動に関わったことや愛育委員を受けたことでいろんな勉強会に出させていただいた。自身の勉強にもなるし、人の役に立つためのいいことだと思っている。筋ドコ体操の啓発では、愛育委員だけでなく、栄養委員や福祉委員にも協力をいただくなど、輪が広がっていった。おかげでいろんな活動に顔を出させていただいている。
- ・数年前、孤独死が地域で相次いで起こった。外に出てこない孤独な人の家を訪ねて行ったり、地域の放送で呼びかけをしたりしていた。

シルバー人材センター

- ・シルバー人材センターでの活動は、会員の生きがいになっている。活動を通じて長生きしてもらいたい。最近は団地に住んでいる人も会員になってくさっている。できればシルバー人材センターへの補助金を継続してほしい。
- ・庭木の剪定の仕事などで出たごみについて、長船で受けた仕事の分だけはクリーンセンターかもめで処理することができず、民間の業者に引き取ってもらっている。その分料金が高くなるのでお客さんが気の毒に思う。かもめで処理できるようにしてほしい。

(市長) 補助金については来年度に向けて生きたお金の使い方になるよう、方法を考えているところ。知恵を出していただいたり、力を貸していただいたりして、地域が元気になるための制度をつくらうとしている。

広域ごみ処理の枠組から脱退するので、かもめで長船のごみを処理できるよう、炉の改修をしなくてはいけないと思っている。

- ・クリーンセンターかもめを24時間稼働にしてはどうか。牛窓のシルバーで夜間の運転管理を請け負うなどすれば管理経費を下げられないか。

(市長) 24時間稼働にすることについては課題が多い。

老人クラブ

- ・補助金カットの効果が出ていないように思う。課別にやっている事業と予算を広報に出せば、市民の関心が上がるのではないか。国の事業仕分けのように、しがらみの無い副市長さんを中心に改革をやってはどうか。

(市長) しがらみのない副市長が中心にやったとしても、あくまでも責任者は市長。役割分担をして改革を進めたい。

手をつなぐ育成会

- ・死の間際まで安心して住んでいられるまちにしてほしい。孤独死の問題について、長船町磯上では福祉委員を中心に地域ごとに高齢者を見守るチームをつくっている。ただし、見守りの担い手である隣近所の情報網が機能していないことが多い。民生委員さんや自治会組織を巻き込んで、てこ入れができれば、地域の見守りの力が向上していくと思う。

(市長) 地域ごとに工夫している取り組みが、他の地域に広がるようなまちにしたい。

愛育委員

- ・足腰が不自由になっても家で暮らしたいという人が多い。生活の中での少しの手助けができる方法があればいいと思う。「小規模多機能ホーム」がこれに

近いサービスをやっていると思うので、もっと増えればいいと思う。

老人クラブ

- ・高齢者は、人との関わりが少なくなると痴呆になりやすくなる。人の輪に入らせることで、笑顔で暮らすことができる。地域で見守り、地域で支えることで地域が明るくなる。
- ・市の職員はもっと地域に出て地域の声を聞くべき。
- ・市の活性化のためにも大きなイベントは5つくらい残すべきだ。
- ・牛窓病院は必要である。PRを上手にやって患者を呼び込む工夫をするべき。
- ・教育は親、PTA、学校、地域で取り組まなくてはならない。地域の目配りが大切。

テーマ：障害者が抱える生活の不安を取り除くためには

身体障害者福祉協会

- ・会員を増やすため、周囲の情報を基に勧誘活動をしているが、障害を持っているという情報をどこで知ったか、とお叱りを受けることがある。
- ・家族、特に精神障害を持つ子どもを抱える親の不安は大きい。自分の死後、子どもは一人で生活できるのかという経済的な不安やどこに相談に行けばよいかわからない不安がある。地域だけでは支援が難しいので市としての支援があればよいと思う。
- ・ろうあの方は特に外出の機会が少ない。事業のやり方を工夫しなくてはいけないと思っている。
- ・足に障害がある人の場合、洋式トイレがないと用を足すことができない。出かけるときに必ず考えないといけないので、施設を充実させてほしい。

手をつなぐ育成会

- ・障害者雇用を進めてほしい。
 - ・障害者団体への助成金の増額をお願いしたい。減額が続いており、大きな事業を実施することが難しくなっている。
 - ・旭川荘の施設ができた。ケアホームのような一時的に能力開発を行う入所型施設の設置や障害者同士が助け合って暮らすためのグループホームも作っていただきたい。
 - ・特別支援教育について、支援員や補助員が必要なのに、県の予算がつかない。市独自の予算化はできないか。また、県の定める特別支援学級の設置基準が1学年3人以上となっているが、1人からでも設置してほしい。
- (市長) 支援員の手当て、特別支援学級の設置については考えたい。支援が必要な子どもについて、潜在的な需要もあると思う。障害を持つことはマイナスではなく、多様性であるとの認識をもちたい。

テーマ：その他

栄養委員

- ・健康の基本は食事である。バランスのよい食事を摂ることで5年後、10年後の健康につながり、医療費の節減にもなる。瀬戸内市はいい食材も多い。今の課題としては中高年、子育て世代への啓発が不足していると思うので、PRをやっていききたい。加えて、郷土料理を次の世代へ伝えていくこともやりたい。